



## 京都市立洛友中学校夜間部(二部学級)の概要

(平成28年4月1日現在)

### 1. 学校基本情報

校名：京都市立洛友中学校

所在地：京都市下京区大宮通綾小路下ル綾大宮町 51-2

Tel : 075-821-2196 Fax : 075-821-2197

e-mail : [rakuyu-c@edu.city.kyoto.jp](mailto:rakuyu-c@edu.city.kyoto.jp)

開設：平成19年4月1日（旧郁文中学校を引継ぎ、新たに開校）

不登校児童生徒等を対象とする特別の教育課程を編成して教育を実施する学校に関する指定要項（平成17年7月6日文部科学大臣決定）に基づく指定校（平成19年3月16日指定）

#### 【教職員数】

校長	1
教頭	1
教員（常勤講師を含む）	8
養護教員	1
事務職員	1
管理用務員	1
非常勤講師	9
スクールカウンセラー	1
総合教育支援員	2
学校司書	1

#### 【校時表】

学活	13:30～13:40(10分)
1校時	13:40～14:30(50分)
2校時	14:40～15:30(50分)
3校時	15:40～16:30(50分)
4校時	16:35～16:50(15分)
5校時	17:00～17:30(30分) 1
6校時	17:30～18:40(70分) 2
給食	18:40～19:10(30分)
7校時	19:10～20:20(70分) 3
学活	20:20～20:35(15分) 4

昼間部

夜間部

※5校時は、昼間部・夜間部生徒の交流学習

※火・金の6校時は昼間部・夜間部合同授業

#### 【生徒数】

	1年生		2年生		3年生		計		合計
	昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間	
男子	2	0	2	1	1	3	5	4	9
女子	4	4	3	10	3	11	10	25	35
合計	6	4	5	11	4	14	15	29	44

※昼間部の人数は5月1日転入学の11人を含む

◆夜間部卒業者数・・・616名 ◆夜間部高等学校進学者・・・165名  
昭和43（1968）年度～平成27（2015）年度の累計

## 2. クラス別生徒数

夜間部	1組	2組	3組	4組	計	昼間部	5組
1年	3	1	0	0	4	1年	6
2年	2	2	5	2	11	2年	5
3年	0	3	3	8	14	3年	4
合計	5	6	8	10	29	合計	15

## 3. クラス編成

- ◆ 基本的に、生徒各々の日本語の習熟度による編成を行っている。学習内容は、同じクラスでも個々の習熟度により異なる。1・2組においては、生徒の読み書き能力から、国語（日本語理解を含む）の時間数を多くする。
- ◆ 不就学・小学校教育未修了である生徒も在籍する実態に対応するため、指導内容の範囲は、小学校1年～中学校3年までの9ヶ年にわたる。
- ◆ 学力的に多様化した、幅広い生徒層が在籍しているため、3学年複式の4学級編成とし、各学級には担任をおく。
- ◆ 実技教科においては、それぞれ1・2組、3・4組の学級を合併。各クラス内での複式授業・個別指導の工夫を行なって学力の充実を図っている。隔週に2時間授業（週当たり1時間）を行う。
  - 音楽・技術家庭 … 1・2組、3・4組・昼間部5組をそれぞれ合併
  - 美術・保健体育 … 1・2組・昼間部5組、3・4組をそれぞれ合併
- ◆ 2組の国語は、国語科の教員・日本語指導教員・母語支援員が協力して、日本語の基礎〔会話を含む〕を指導している。
- ◆ 全クラスの各授業には、基本的に学生ボランティアが、学習支援にはいる。今年度の入学生を含め、日本語の習得が急がれる現状があり、日本語指導ボランティアの導入を図る。  
＊学生ボランティア・・京都市教育委員会「学生ボランティア」学校サポート事業による。
- ◆ 今年度は、課外3時間・課内1時間の日本語教室を開講する。

## 4. 生徒の年齢構成

夜間部	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	計
男	1	1	0	0	0	0	2	0	4
女	0	0	0	2	7	5	11	0	25

平均年齢 62.3歳

男子平均 46.8歳 (17歳～78歳) 女子平均 64.8歳 (43～78歳)

## 5. 在籍年別人数

1年	2年	3年	3年(4年目)	3年(5年目)	3年(6年目)
4	11	5	3	5	1

※ 義務教育未就学であることから、9カ年にわたる教育を保障しなければならない点で、3カ年という就学期間では、なかなか保障できない問題がある。よって、本人の希望があれば、校長面接を行い、学習意欲及び習得状況を考慮し、留年措置をとることもある。留年の原則は3年以内とする。長期欠席で継続的な登校ができない場合は、原則として除籍することとなっている。音信不通の長期継続者も同様に扱う。

## 6. 国籍別生徒数（夜間）

	1年		2年		3年		合計		7
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	
日本	0	0	1	1	2	3	3	4	7
韓国・朝鮮	0	3	0	7	1	6	1	16	17
中国(台湾含む)	0	1	0	2	0	2	0	5	5
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	4	1	10	3	11	4	25	29
	4		11		14		29		

外国人生徒数 75.8% (韓国・朝鮮 58.6%) (中国・含む台湾 17.2%)

日本国籍生徒 24.1% (中国残留邦人 57.1%)

## 7. 年間行事（今年度）

	上　旬	中　旬	下　旬
4 月	春季休業 離任式・着任式・始業式 入学式・激励会	オリエンテーション クラス発表・クラス写真 身体計測 給食開始	
5 月	昼間部生徒転入学生歓迎会 憲法月間	検尿 認証式	春の校外学習（滋賀方面） 再検尿
6 月	前期教育相談 眼科検診 歯科検診	前期教育相談 球技大会（学校公開） 授業参観（学校公開）	夜間部前期テスト
7 月	夜間部前期テスト		夏季休業 家庭訪問 学習会
8 月	夏季休業 家庭訪問	夏季休業 家庭訪問 学習会	授業開始 朱雀中学校参観
9 月	耳鼻科検診	科学センター学習	文化祭①公開 文化祭②公開
10 月		内科検診	
11 月	東九条マダン	宿泊旅行（淡路島方面） 避難訓練 夜間部後期テスト	
12 月	人権月間 後期教育相談	後期教育相談	年末懇親会 冬季休業
1 月	冬季休業 授業開始 夜間部生徒募集	進路説明会 避難訓練	文集編集
2 月	入試面接練習 公立高校成人入試 民族の文化にふれる集い	連合作品展（大阪市） 夜間部生徒募集〆切	人権交流京都市集会 夜間部入学説明会 夜間部たしかめテスト
3 月	公立入試 入学希望者面接	卒業生送別激励会 卒業式	修了式 春季休業

## 8. 沿革

1950(昭25)5	京都市内 12 中学校に二部学級を開設する。
1953(昭28)	市内二部在籍生徒 599 名でピークとなる。
1954(昭29)	二部設置中学校 14 校となる。第 1 回全夜中研大会を洛東中で開催する。
1967(昭42)12	学齢超過者対象の二部学級設置校を郁文中学校に決定する。
1968(昭43)5.1	郁文中学校に二部学級を開設する。3 学級、専任教諭 3 名、入学生徒 8 名。
1969(昭44)4.1	2 学級、専任教諭 2 名に減少、複式授業を開始する。
1970(昭45)3.31	学齢生徒対象の二部学級を全廃する。郁文中学校のみで夜間中学校を存続する。
1976(昭51)4.1	3 学級に増加、専任教諭 3 名、単式学級を実現する。
1977(昭52)4	学年をはずしたクラス編成となる。
1978(昭53)4.1	専任教諭を 4 名に増加する。
1979(昭54)11.21	第 25 回全国夜間中学校研究大会を開催する (於 : 京都社会福祉会館)。
1987(昭62)7.27	校舎改築のため、昼間とともに仮校舎 (下京区中堂寺坊城 9-3) へ移転する。HR 教室が二部専用となる。
1988(昭63)4. 1 9.20 10.8	複式 4 学級へ認定を変更する。 新築となった現校舎へ再移転する。北校舎 1F 5 教室が二部専用となる。 新校舎竣工式を行う。
1992(平4)6.1	嘱託による非常勤養護職員を配置する。
1997(平9)4.1	専任教頭を配置する。
1998(平10)4.1	女性教諭、養護職員を配置する。
1998(平10)5.1	創立 30 周年を祝う会を開催する。
1999(平11)4.1	専任養護教諭を配置する。
1999(平11)7.12	京都市教育委員会パイオニア研究指定校となる。
2000(平12)11	京都市教育委員会パイオニア研究指定校二年次を迎える。
2000(平12)5.1	総合学習を開始する。
2000(平12)11.24	京都市立二部 (夜間) 学級 50 周年式典を開催する。
2001(平13)3.8~9	他府県の二部学級を視察する (広島市)。
2001(平13)10.1	給食導入 各組に電子レンジ配置をする。
2002(平14)3.14	エレベーターを開設する。
2002(平14)4.1	完全週 5 日制実施、快適トイレ完成、市教委より車椅子 2 台配分。
2002(平14)12	全国夜間中学校研究大会にて、生徒会活動について発表する。
2003(平15)4.1	展示ボード及び玄関入り口に照明を設置する。
2003(平15)12	パイオニア実践研究で東京荒川九中夜間部を視察する。
2005(平17)8.23	全国外国人教育研究大会にて、自分史づくりの取組を発表する。
2005(平17)12.2	全国夜間中学校研究大会にて、自分史づくりの取組を発表する。
2006(平18)4.1	二期制を開始する。
2007(平19)3.31	郁文中学校を閉校する [下京 5 中学校の統廃合による]。
2007(平19)4.1 5.1	洛友中学校 (昼間部・夜間部併設) を開校する。文科省による教育課程実践校。不登校を経験し克服しようとする昼間部生徒と夜間二部生徒が共に学ぶ学校。所管を学校指導課から生徒指導課へ変更する。
2007(平19)4 5.1	金工室を洛友サロンに改修する。特に昼間部の集会室や教室として利用する。
2008(平20)4.1	学齢期の生徒の転入により、不登校を克服する教育課程を本格的に実施する。
2008(平20)5.1	重度障害者通所介護施設「じゅらく」の仮所 (11 月まで旧木工室改修) となる。「ふれあいの杜『四条大宮』学習室」を本校 3 階に開設する。
2009(平21)3.1	洛友中校歌の額 [村岡徹氏筆] (郁文創設 40 周年記念) 体育館に設置する。
2009(平21)8	全国外国人教育研究大会 (広島) にて研究発表する。
2009(平21)11	全国人権同和教育研究大会 (四日市) にて研究発表する。
2010(平22)4	文部科学省より人権教育研究指定校となる。
2012(平24)4	文部科学省より中学校夜間学級調査研究委託校となる。
2013(平25)2	近畿夜間中学校連合作品展に出品する。
2014(平26)4	日本語教室を開講する。
2015(平27)12	第 61 回全国夜間中学校研究大会 (60 周年記念大会) を洛友中で開催する。
2016(平28)4	奥の院が格致学区「つどいの広場」仮所となる。

## 9. 教育実践の主な活動

- (1) 習熟度別及び日本語能力別のクラス編成の工夫による基礎学力の充実。
- (2) 個人の学習履歴や能力・生活体験に合わせた教材・教具の開発と研究。  
授業でのグループ学習・個別指導の徹底化。学生ボランティアの活用。
- (3) 一人ひとりの生活の場・健康や学習相談のための夏期に集中家庭訪問。  
徒歩及び自動車・交通機関を利用する生徒への安全教育〔地元の警察〕。
- (4) 複雑で多様な心理や実態・背景をもつ生徒の集団作りに向けての学活。  
生徒会活動・学校行事・清掃活動などの工夫による学校生活の活性化。
- (5) 一人ひとりの個別学習経験をさらに意味づける「総合的な学習」実施。
- (6) 本校での学びの履歴や体験の研究と文集「夜空」(年1回)の編集発刊。

## 10. 今後の課題 (学習指導や生徒指導を中心に)

- (1) 新規入学生徒の拡大・多様化する学力差に応じた指導法。
  - \* 生徒の年齢層の幅の広さ(15歳~77歳)に対する柔軟な教え方。
  - \* 基礎的・基本的学力不足の生徒への効果的な学習指導。  
(入学前に小学校未入学・不就学・小学校未修了の生徒も在籍)
  - \* 進学希望(公立夜間定時制\*成人入試)生徒への適切な進路指導。
  - \* 中国や韓国など新渡日・引揚げ移住生徒等への日本語の指導。  
(ハングル・中国語などを補助とした教材の開発や翻訳)
- (2) 進度別・適応別クラス編成の工夫による学習の一層の充実化。
  - \* 非常勤講師や通訳ボランティアの時間数や人数の増加。  
(学生ボランティアに頼らざるをえない現状の打開や解決)
- (3) 学齢期の生徒や高齢者等に対する諸条件の整備。
  - \*スクールカウンセラーや総合育成支援員などとの協働協力。
- (4) 教員数の増員。(出張などによる授業の組替えが困難)
- (5) 高年齢生徒の健康管理・食教育と、通学経路での安心・安全教育。
- (6) 外国籍生徒や中国ゆかりの日本人への明るい将来展望や期待。
- (7) 心理的不安による欠席傾向・遠距離の通学生徒の就業や就学対策。
- (8) 学生ボランティアの有効な活用・大学および教育委員会との連携。
- (9) 昼間(学齢期)生徒と夜間生徒との豊かな交流。
- (10) 生徒募集(美術科との連携のポスター制作)の工夫〔生徒指導課〕。
- (11) 本校の教育活動の広報活動や情報宣伝の工夫。
- (12) その他
  - \*近畿の夜間中学校や全国の夜間中学校などの取組や成果から学ぶこと。
  - \*京都市立中学校各教育研究会との連携に努めること。  
(二部学級部会や中人研外国人教育部会など。)
  - \*生徒指導部会や不登校を経験し克服しようとする学齢期の生徒に学ぶこと。

校歌 心抱いて 作詞 山本純子 作曲 平田あゆみ

いいたかったことばを	なんでもないことばを	とっておきのことばを
そつとつぶやいて	ふっとおもいだし	ぐつにぎりしめ
いつかはと思う	しあわせ感じる	勇気ふりしほる
そんな日がある	そんな日がある	そんな日がある
花が風にゆれるように	鳥が羽をひらくように	雲が空をはるるように
わたしはまよいながら行く	わたしはうたいながら行く	わたしはさそいながら行く
この道はるか	この道はるか	この道はるか
心抱いて	心抱いて	心抱いて